

作／田口浩一郎

傾斜空間 一人芝居ナイト参加作品

ハムレットとロミンオとジュリエット

劇場内にアナウンス。

「シエークスピア悲劇、ハムレット、第五幕、第三場。ハムレット、真剣十代しゃべり場に出演のこと。ハムレットの登場です。」

舞台中央にサス。ハムレット、椅子に腰掛けて足を組み顎に手を当てて登場。

ハムレット..

さて、今回のテーマ『Wカップで日韓は本当に近い国になったのか?』なのだが、余は率直に言うて遠いと思う。

ま、諸君、異論はあろうが。分かっている、異論はあろうが。

問題はどこまでが近く、どこからが遠いかだ。

新橋までならどうか。

遠いか?

日暮里はどうだ。

意外に近いかしらん。

武蔵小杉なら?

八王子はどうだ?

東小金井なら中央線沿いで意外と便利だ。

都内近郊だけでは不満か?

大宮なら

最近合併したさいたま市は？

西船橋は？

横浜、なかんずく山の手周辺では？

お洒落ではないか。

ではスヘインは？

インドなら？

エジプトか？

我が退屈なる祖国デンマークはどうだ。

地の底、いつそ地の底ならどうか？

そうだ、煉獄よ。

だがもとよりこの世界が煉獄だとしたら！

近いのか、近くないのか、それが問題だ。

照明C. O 同時に「グリーングリーン&紹介音声」が流れる。

「ハムレット、デンマークの17歳。名門ヴィッテンベルグ大学に通い、気ままな学生生活を送るも、父王の急死により中退。現在立派な王様になるために勉強中だ。将来の夢は父上の仇を討つこと。そんな硬派な彼も、このところ宰相の娘、オフィーリアに夢中だ。身分違いの恋に燃えるハムレットが、今日は鋭く、Wカップと日韓関係を切る！」(しゃべり場！)

音楽C. O、同時に照明C. I。

ハムレット、フリップと赤マジックを用意している。内容は日本と韓国の地図。

ハムレット：

もう一度話を整理してみよう。

これが日本(赤マジックで囲む)。

で、これが韓国(赤マジックで囲む)。

これが日本。

これが韓国。

ま、異論はあろうが。

もう余にはこれ以上語ることがあろうとは思えぬ。

明らかに遠いではないか。

鼻屑目に見ても近くなつたとは言えん。

ロナウド、ロナウジーニョが日本列島を西に蹴り上げ、興奮したフリーガンが全ての原発に放火し、イギリスに帰ろうとするベツカムのときかを日本中の女がわし掴みにして離さなかつたとし
ても、太平洋プレートを動かす程の力は発生せぬであろう。

もう、小揺るぎもせんであろう。

あの大陸移動説のウエゲナーでさえ「いや、移動しない」と言い切るであろう。
で、余、ちよつと考えた。

はつきり言つて名案だと思ふ。

革命的発想だと思ふ。

ま、諸君、異論はあろうが。

そもそも二つの国はなぜ遠いか。それはだな、結局、二つの国だからだ。

二つの国は別々のものだから当然離れているわけだ。

ではどうするか。

一つにするわけだ。

なに、国境をちよつと北緯38度線あたり、この板門店まで上げるだけだ。こよう、ひよいつと。一つになれば距離など無い。

アメリカとアメリカの距離などあろうか？

インドとインドの距離などあろうか？

ハムレットとハムレットの距離などあろうか！

ああ、意中の女ともこようありたいものだ。

みんな一つになればいい！

暗転、音響C・I。(しゃべり場?)、照明C・I。

突然だが余はゲイだ。

うむ、カミングアウトしてすつきりした。

余ははつきり言つて社会的弱者だ。

なぜならゲイだからだ。

女なぞ嫌いだ。

さつきは皆を欺ごまかしてしまつて悪かつた。

Wカップを通じて一つになった両国には、是非男と男の熱い友情を結んでもらいたい。女なぞ嫌いだ。

私もチング、あなたもチング。
チングとは親友という意味です。

さて、こうして国境を越え一つになった両国には、相応しい名前が必要だと思う。
ここでまた、余、考えた。

新しい名前には二つの地域の言葉を盛り込んだらどうか？日本語と朝鮮語、平等に、喧嘩にならぬようにな。

いいアイデアであろう？今までに無いアイデアであろう？

日本国、そして大韓民国―つまり朝鮮語でテーハミングク―二つ合わせて大日本テーハミングク。どうだろう。(同時に大日本大韓民国というフリップを出す)

なに？逆に喧嘩になる？

どうして？平等に日本にも大という字を付けたではないか。

ファシズムのにおいがする？

そうか、そうだな。言われてみれば。

暗転。音響C. I.。

「ここでお便り紹介。Wカップでは、ドイツがサウジアラビアをいじめていました。何も8点も取ること無いのに。あれは正直いじめだと思う。人の振り見て我が振りなおせ！日本人も反省すべきだと思いました。追伸、Wカップでは弱い国がかわいそうでした。次の大会からは全部の国が優勝がいいと思います。(うーん、新しい視点が出来たな、余もそう思うぞ！) 兵庫県 ラルク・アン・ピカチュウさん 十八歳

イングランド対アルゼンチン戦では、警察が外国人だというだけで、まるでフリーガン扱い！ロボットみたいに通が利かなくて上からの命令に従うその態度は、まるで官僚や軍隊みたいでした。日本の警察よ、ちゃんと反省しろ！（余もあれは腹が立ったぞ。みんな地球の友達なんだから仲良くすべきだな） 神奈川県 歴史を見てきた十四歳さん 十六歳「しゃべり場アン」

照明 C. I.

ハムレット：

突然だが余の姉は脳性マヒだ。

うむ、カミングアウトしてすっきりした。

余ははつきり言つて社会的弱者だ。

Wカップで結ばれた両国は、弱者に優しい国であつて欲しいと思う。

そうすれば日韓どころか、東アジアだつて一体となり信頼しあい、いつか世界中が一体となり信頼しあう時代が来る。

そうすれば世界中が近い国になつて、一緒になつて、一つの国になるだろう。

Wカップは全世界が負けて嘆き、勝つて笑うであろう。

全チームは1チーム。

全一試合。

予選は決勝。

トーナメントは一直線。

地球代表は優勝し最下位で引き分ける。

表彰台の選手は、月桂樹をかぶり、勝利の杯にキスし、ついでに生卵をぶつけられるだろう。

ここではみんながGK、DF、FW、MFで司令塔、王子様、オウンゴール、ベンチ入り、監督、通訳、川渕チエマン。

観客であり、弱者であり強者である。

オウンゴールはもちろん射殺だ。

サツカーは戦争だし。

弱者はいい、戦争に行かなくても。

強者が勝手にやりやあいい。

それで最後は弱者が勝つ。

世界が弱者の国になる。

みんな弱者になっちまえ。

ウロボロスの蛇。

弱者スキスキスキ。

暗転。劇場内にアナウンス。

「シェークスピア悲劇、ロミオとジュリエット、第五幕第四場、ロミオ、修学旅行の夜に猥談のこと。演出オスカー・ワイルドでお送りします。ロミオの登場です」

舞台中央にサス。ロミオ、パジャマ姿で枕を抱き、頬杖をついて椅子に座っている。

ロミオ:

マー君、マジ、エロ過ぎ。
で舐めたの？

ウソ。

キスは？

してないの？

カンペキ順番逆じゃん。

もう超エロいよ。

やべ、勃ってきちった。

で、やったの？

だからさあ、入れたの？

：なんで入れねえんだよお。そこまでやってさあ。

ベン君やったことあるんだよね。

どうなの？

マジで？変な味なの？

いいなあ。

はやくやりてー。

じゃナニ、ベン君以外童貞なんだ。

いいなあ、ベン君。

マー君つてさあ、じゃあアソコ見たことあるんだよね。

どうなの？

だからさあ、色とか形とかさあ。

見えなかったの？

なんで？

見えないモンなの？位置的に？

ベン君は？

いつも電気消すの？

なんで？節電？

彼女が消すの好きなんだ。

変態じゃねえの。

消すのが普通なの？

じゃナニ？これだけの勇者がそろってアソコに関する情報ゼロなの？

マジかよ。

大したことあるよ。

僕にとつては大事よ。おおいで

君らはいいよ、やったことあるんだからさ。

マー君だつてやったようなモンだよ。だつて舐めたんでしょ。変な味だつたんでしょ。いいなあ。

じゃ僕が最も童貞に近いじゃん。っていうかまぎれも無く童貞じゃん。

マー君は童貞じゃないよ。

君を神聖な童貞の仲間にするわけにはいかねえ。

悔しかつたら童貞にもどれ。

ベン君、戻りてえとか言うなよ。

余裕見せやがって。

挿入したぐらいで威張るなよ。

うーん、じゃあマー君は名誉童貞ね。

名誉ある童貞ね。

ベン君は汚けがらわしい大人ね。この線から童貞ワールドね。こっから入らないで。

マー君何でそっち行くんだよお。

童貞ワールドに帰って来いよお。

…ちきしよう、何でお前らだけ調子よく女が寄ってくるんだよ。

好きな娘？いるよ。

告る？もう告ったよ。

音響、楽劇「ワルキューレ」より ワルキューレの騎行。

その女にはキューピッドの矢も当たらず、持っている知恵が処ダイアナ女神のそれときている。

貞操堅固なことといったら鎧を着ているのも同然で、

いくら甘い睦言をのべて攻めたててもびくともしない、

いくら色目を使つて落とそうとしても冷然としている、

聖者もたぶらかされる黄金で買収しようとしても一向に膝を崩そうともしない。

確かに豊かな美貌に恵まれた女だが、結局は貧乏な女というべきかもしれぬ、死んでしまえば、あり余る美の宝庫もいつしよに死んでしまうことになるからな。そうなのだ。節約しているつもりでどえらい浪費をしているわけさ。(枕を引き裂く) 操を頑として守って死んでゆけば、せつかくの美も、(ハムレット、羽毛を撒く。)

子孫に伝わらないまま自ら葬り去ることになる。

余りにも美しく、余りにも用心深く、余りにも貞操堅固、

おかげで僕は絶望に瀕している。そんな女が天国にゆける資格はなからう。

あれは、男を恋しませぬ、と誓った女。その誓いのために、

こうやって君にもものを言っている僕は生ける屍というわけだ。(羽毛が無くなる。ロミオ、手招き、ハムレット、追加の枕(「一人芝居ナイト」と書いてある)を持って現れる。ロミオ、枕を引き裂く。)

とすれば、ここにあるのは、憎憎しい愛情だ！愛情豊かな憎悪だ！

無から作り出された有だ！

重々しい軽快さだ！真摯な浮かれ心だ！

見た目には格好いいが、その実は無残な混沌だ！

鉛の羽毛、輝く黒鉛、凍る火、病める健康だ！

絶えずさめている眠りだ、自分であり自分でないものなのだ！

僕の恋はそんな恋なのだ、恋して恋されぬ恋なのだ。

おい、君、君は笑わないのか。

音響、C. O.。

笑うな！

人の不幸を笑うな！

やだよ、風俗なんて。

そっだよ、純愛だよ。

君らみたいに軽々しく捨てないんだよ。バージンはさ。

そっだよ、カッコいい？

だからマー君は童貞じゃないでしょ。

じゃ、いいよ、特別に童貞連合への復帰許すわ。キスマだだし。挿入も。

ベン君は許せねえ。

あんたはもう戻れないよ。

心の童貞？何だそりゃ、却下。

ベン君のは純愛じゃないよ。

君はもうカンヘキ剥けてる。皮が。

カワイく無い。見た目も中身も。

え、剥けてないの？

嘘だあ、彼女が気づかないわけ無いじゃん。

…ホントに？だから部屋暗くしてやってたの？

いや、お前の勝ちだつて言われても。

そこまで深刻なの？

え、泣くなよ。

ああ、ウソ、ごめん、ホント泣くなよ。
僕もだよ。

みんな同じだよ。

マー君もだよな。

おい、話し合わせろよ。

よし分かった、みんな童貞だ。

ベン君をエクストラ会員に認めるよ。

おい、泣くなよもう。

音響、ドヴォルザーク、交響曲第九番 *Molto vivace*。

包茎と！なんという残酷な！どうか「死刑」と言ってください。

包茎の身には慄然とするような恐ろしさがつきまとっています、

死よりももつと恐ろしいのです。どうか「包茎」などとは言わないで下さい。

包茎であることは、世界から追放されることです。

世界から追われ流浪の旅に出ることは死出の旅です。ですから「包茎」とは、誤つてつけられた死の異名にすぎないのです。

死を「包茎」と呼ぶのは、私の首を黄金の斧で切り落としておいて、

私の命を奪ったその一撃を見事だとほめるようなものです。

どうせ死ぬのなら、「包茎」という言葉で殺されたくはない、

何かほかに、たとえば、調合された毒薬とか、鋭く研ぎすまされた短剣とか、

どんな不名誉なもので構わない、何か即座に命が絶てる手段が欲しいのです。(ロミオ、手招き。ハムレット、袖から花かご(一人芝居ナイトと書いてある)に、バラのフラワーシャワーを持って入ってくる来る。)

「包茎」? ああ、神父様、包茎という言葉は、地獄に堕ちた奴らが使う言葉、
そして吠える声がそれには付きものはず。ああ、神父様!

(花びらを撒く)

あなたは聖職者の癖に、懺悔を聞く司祭のくせに、罪の赦免を司る教職者のくせに、
いや、私の血盟の友のくせに、どうして「包茎」という言葉をつかつて、

この私を無残にも切りさいなむようなことが平気でできるのですか! (ハムレット、花かごを持って出て行く)

音響、C. O. .

包茎じゃ死なないよ。

大丈夫だよ。

毎日洗ってれば平気だよ。

なに、そんな変なの?

じゃ見せてみなよ。

恥ずかしくないよ。

僕たちともだチンコじゃん。

え...僕も?

…しようがねえな。

じゃあ見せっこね。

マ―君も脱げよ。

よし、じゃ一斉のせ、な。

「せ」で下ろせよ。

ロミオ、客席に背を向ける。ズボンに手をかける。

じゃ、いくぞ。

一斉の―せ！

ロミオ、ズボンを下ろす。尻に「世界人類が平和でありますように」という半紙が貼つてある。
暗転。

ロミオ：

確かに…変だね。

劇場内にアナウンス。

「シエークスピア悲劇、ロミオとジュリエット、第五幕第五場、ジュリエット、自分探しのために居酒屋でバイトのこと。ジュリエットの登場です」

舞台中央にサス。ガヤガヤという居酒屋の喧騒。壮麗なドレスに身を包み、「庄屋」のエプロンをしたジュリエット、伝票を片手に注文を読み上げている。(この辺から、喧騒、非常に緩やかにF. O.)

ジュリエット:

生1、ウーロン3、巨峰2、カルピス2、ソルティー1、はいりまーす。
よ、よろこんでえ。

あ、今言わなくていいのか。

“ドン”という音、ジュリエット、転ぶ。

あ、あ、すいません。

…あ、ありがとうございます。

はい、あの、今月で二ヶ月です。

はあ、慣れてきたように思います。

あ、よろこんでえ。(トレーを受け取る。)

す。
ハムレット、庄屋のエプロンをつけて、ビールをトレーに乗せて入ってくる。無言でジュリエットに渡す。

あ、よろこんでえ。(トレーを受け取る。)

はい、みんなに優しくしていただいています。

あの・・・この間。

あの、合コン。

すいませんでした。

あたしお酒口つけたことも無いんで。

はい、トライしてみようかと思ったんですけど。

白けましたよね。

男の子、みんな怒ってなかったですか？

あたしですか？

あたしは怒ってないですよ。

喋れないのは、あのお、私、実は男の子苦手で、兄弟とかいなかったし、父が厳しかったんで、兄弟とかはいたんですけど全然喋ったことないんですよ。学校は全部女子校だったし。

付き合ったこと・・・？無いですよお。

殺されちゃいますよ、お父さんに。

別に・・・お嬢様じゃないですよ。

そんな風に見えますか？

ええ・・・そんな積りじゃないのに。

は、恥ずかしい。

ジュリエット、手に持つ仮面で目元を隠す。

あ、これですか？ 恥ずかしい時のために…、持たされてるんです。乳母ばあやに。
私人見知りなんです。

向かないですかね、居酒屋。

今までですか、バイトですか。

無いですよ。

え、お金とか興味ないですもん。

あの、手塚治虫の「ブツダ」を読んで。

はい、で「あたしこのままじゃだめだあ」、って思つて。

バイトはじめたんです。

何か思つたんですよ「このままじゃだめだあ」って。

就職ですか？

うーん、考えたこと無いなあ。

やつぱバイトですよ。断然バイト。

就職つて企業のロボットつてカンジじゃないですか。

その点バイトは「何か考えてる」ってカンジしますよね。

サラリーマンなんて生きる力ゼロですよ。

「チーズはどこへ消えた」でも読んで勉強して欲しいですよね。

え、ビール？

あ、いけない。持つて行かなくちゃ。

…よし、さ、さ、3番テーブルですね。

い、行つてきます。(仮面をつける)

き、緊張するウ。(変な歩き方をする)

え、これ外さなきやだめですか？

あ、あ、あ、あたし駄目なんです。

初対面の人と話す時はこれ着けないと。

ど、ど、ど、どもつてしまつて。

はい、あの面接の時は出掛けに「中田語録」を読んできたんで。

自分の壊れやすい内面を支えていたんですけど。

今日は内田春菊の「ファザーファッカー」を読んできたので。

いえ、あの、逆境に負けない強い自分になろうと思って。

逆効果だったみたいです。

途中まででは。

あー、緊張するう。

はい、今度からは100パーセント前向きな本を読んできたら来ます。

…あの。

あたし…おかしいですか？

やっぱ、これって…おかしいんだ。

いえ、薄々感じてたんですけど。

はい、分かりました。いえ！いえ！

思い切つて私、これ…卒業します！

ジュリエット、仮面を後ろに放り投げる。

そ、爽快。

こうしてみんな大人になっていくんですね。

やっぱりいいですよ、チャレンジって。

バイトして良かったあ。

~~~~~注文。

やっぱりだめ。

チャレンジ終了。

バイト辞めます。

切腹だ！

今日までの、自分の嫌な部分、できない部分、使えない部分を今すぐ斬り捨てよ。そう、心の

ガチンコの大和龍門の言葉です。

今日から私にバイトは不要。

ちよつと解脱しました。

だからこんなことも自由。(トレーを投げ捨てジョッキを掲げる)

何故なら今日から客。

さよなら！——ホントにまたいつお目にかかれることかしら！

血も凍るような恐ろしさに気も遠くなりそう

命の火も凍って消えてしまったような気がする。

ここにあるのが薬の瓶！

もしこれが本当の毒薬だったら？

そしてこの生に倦み果てた肉体から  
不運な星のくびきを断ち切ってしまいたい。  
荒海に疲れ果てたこの船を、この肉体を一挙にたたきつけ難破させるがよい！  
カン。パイ！

ビールを飲み干す。

おいしい…。

完